

正泉寺・五郎田遺跡 発掘だより

第2号 2024.7.9

古墳時代から平安時代の^{たてあな たてもの} 竪穴建物跡を続々と発見

4月の発掘調査開始から3か月ほど経ちました。遺跡は、土曾川左岸の微高地上に広がっています。調査の便宜上、国道153号に接する部分を1区、その北西側を2区、3区と呼び、調査は2区から開始しました。現在、1区へも展開し、1・2区あわせて古墳時代から平安時代の竪穴建物跡を約30軒、土坑を約30基^{どころ}検出し、調査を行っています。

竪穴建物跡などの遺構は、古い時期のものが埋まった後に、新しい時期のものが掘り込まれ、重なり合ってみつかります。それが繰り返され、自然の地面がないほど密集している様子が分かってきました。



遺跡の位置



2区の調査風景

調査のようす

竪穴建物跡の中から、注目される古墳時代の竪穴建物跡（SB4）をご紹介します。この遺構は、飯田下伊那地域にカマドが伝わった5世紀中頃に営まれた建物です。北西壁際では高坏などの土器が集中してみつかり、この場所で土器に供え物を盛ってマツリが行われたのではないかと考えられます。このような土器の出土状況は飯田市内の同じ頃の4遺跡ほどでみつかり、



竪穴建物跡（SB4）の掘削

一辺約5mの方形の竪穴建物跡を、土層観察のための十字のベルトを残して掘り下げていきます。



北西壁際の床面に土器集中

南東壁にはカマドがあります。手前の壁際にはほぼ完形の土器が集中して置かれていました。



北西壁際に集中する土器

土器は20個あまりで、高坏が最も多く、ほかに坏、小形の甕、甑がありました。



カマドに残る土器

カマドの燃焼部には大形の甕があり、外側に高坏2個が、内側に大きな石が置かれていました。また、カマドを構築する石も残っていました。



調査区域内には危険な場所もありますので、許可なく立ち入らないようお願いいたします。調査中であれば、ご説明いたしますので、お気軽にお声掛けください。

長野県埋蔵文化財センター 飯田支所

〒395-0151 飯田市北方297-5

電話：0265-49-0736

メール：maibun@naganobunka.or.jp

H P：<https://naganomaibun.or.jp/>

担当：長谷川/綿田/春日/遠藤